

授業作り	重点	・基礎学力の定着と確かな学力の育成を目指す。特に英数では、習熟度別授業の特性をいかし、個の能力に応じた学力の定着を図る。 ・毎時間の授業で授業スタンダード（始めにねらいの提示をする。→ねらいに合わせた振り返りをしてまとめる）の徹底をすべての教科で行う。
環境作り		・小グループにおける教師相互の授業観察。 ・大型ディスプレイとホワイトボードを併用し、見やすく分かりやすい授業を目指す。 ・一人1台のタブレット端末を活用し、自学自習の意欲を促す。また、長期休業中の課題や、授業内や家庭にて取り組めるデジタルドリル等の課題提示。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	「思考・判断・表現」は区、全国共に平均を上回る。新2年の「知識・技能」のみ、区の平均を下回った。特に「漢字の書き」設問の正答率が区の平均を著しく下回っており、今後の課題である。	「知識・技能」の向上を目指して、日々の家庭学習（漢字練習）を今後も継続する。また、文章読解や自分の考えをまとめるためにも、語彙を豊かにする取り組みを行い、なぜそのような考えになったか根拠を明確にするよう指導していく。	①家庭学習の継続 ②デジタルドリルの活用 ③国語辞典の活用
数学	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点共に区、全国の平均を上回る。 「関数」の単元の正答率が他とくらべ低いことが課題である。	身の回りにある事象と、関数との結びつきを意識し、関数の問題を解くことの指導だけでなく、概念的な理解を助長するような授業展開を増やしていく。また、デジタルドリルを活用し、関数分野の理解度の向上を図る。	①デジタル教科書のデジタルコンテンツの利用。 ②協働学習支援アプリの活用 ③デジタルドリルの活用
理科	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点は新2年では、全国・区の平均を上回り、新3年では全国の平均を下回っている。新2年では、「生物の体の共通点と相違点」、新3年では、「物質の成り立ち」「火山と地震」に課題がみられる。	身近な物質の性質に実験・観察を通してより多く触れ、興味・関心を生徒にもたせることで、科学的な原理・現象の理解を深める。また、生徒に授業を主体的に受けさせる指導を目指す。協働的な授業を行うとともに、個別最適な授業を工夫して行い、基礎・基本、知識の定着を図る。	①ICT 機器の活用 ②協働学習支援アプリの活用 ③デジタルドリルの活用 ④集計アプリの活用
社会	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点は新2年・3年ともに全国・区の平均を上回っている。新2年では歴史的分野の古代史で全国・区の平均を下回る結果がみられた。	知識・技能が身に付いているので、レポートにまとめたり、ICT 機器を使用して発表を行ったりするなど、思考・判断・表現を深めていくような授業展開をより増やしていく。 また歴史的分野の復習としてデジタルドリル等を活用し、苦手分野の克服を図る。	①レポートの作成 ②デジタルドリルの活用 ③プレゼンテーションソフトなどを使用して個人や少人数グループによる発表活動
英語	「知識・理解」、「思考・判断・表現」の観点共に区、全国の平均を越えている。 「英文から要点の読み取り」の正答率が他と比べて低いことが課題である。	帯学習等で、継続的にまとまりのある英文を読む課題に取り組みせ、読み取るポイントを意識して読む学習を進めていく。また、単元ごとに長い英文の内容を自力で読み取る力の定着も図る。	①副教材を活用した帯学習 ②教科書各単元の Read and Think の継続的な活用